

令和6年度 学校経営計画・学校評価

■4月4日提出

■10月3日提出

■3月14日提出

学校番号

18

高知追手前高等学校吾北分校

課程

全

高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備
スクールポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学受入れ方針) ○自己の能力を伸ばそうとする意欲のある生徒 ○教科の学習や実習等に真面目に取り組む生徒 ○思いやりがあり、主体的に考え行動できる生徒 ○学校行事・部活動・生徒会活動等に積極的に参加する生徒 ○自己の進路について真剣に考え、将来、地域や社会に役立つ人間になろうとする生徒	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)	○小規模校の特性を生かし、きめ細やかな指導により、一人ひとりを尊重した授業を展開します。 ○将来を見据え、自己理解を深めるためのインターンシップや地域の伝統産業である土佐和紙や郷土芸能である清流太鼓を題材とした探究学習に取り組めます。 ○本校との遠隔授業や県教育センター遠隔授業配信センターからの授業を選択授業として設定しています。
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○目標に向かって努力する力を育成します。 ○他者と協力・協働し課題を解決する力を育成します。 ○地域に根ざした活動を通して社会に貢献できる力を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】 評価 【 B 】	長期休業中の個別補習と全校生徒を対象とした毎週月曜日放課後補習で義務教育レベルの学び直しを行ってきた結果、学校全体として学力の向上が見られた。次年度も個別補習や放課後補習、遠隔補習(公務員、進学)を継続して取り組みたい。
【社会性の育成】 評価 【 B 】	小中高合同運動祭や文化発表会などの学校行事について、アンケートを実施した結果、地域貢献度の肯定割合は100%であった。合同運動祭や文化発表会を通して生徒たちは協調性や自主性、団結力を身につけることができた。また、「総合的な探究の時間」では、地元産業である土佐和紙を題材とした学習を全校で取組、希少価値としての和紙の重要性を学んだ。また、3年生は今年度から清流太鼓についても学んだ。これらの取り組みを通して地域を支える人材として成長していく姿が見られた。
【チーム学校】 評価 【 B 】	学校の教育目標を達成するためには、保護者との信頼関係を構築し、地域の教育力も活かした取り組みが重要である。学校評価アンケートから中学校関係者や地域、保護者が期待していることは「進路、就職希望に応える教育をしてほしい」である。有為な人材を社会に送り出すためにも教職員が一丸となって高校教育を推進しなくてはならない。まずは生徒理解と生徒支援に努め、幅広い進路希望に応える必要がある。また、部活動を通して文化の創造と体力の向上を図り、心豊かな人間を育成したい。

(評価)A:目標を十分に達成 B:目標をほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	①C層以上の生徒の増加 ・入学時と比較して、C層以上の生徒の割合を増加させる。 ②授業外学習時間の増加 「授業外学習(家庭学習等)をほとんどしない」と回答する生徒の割合…15%以下 ③将来のための勉強をしている生徒の増加 将来の可能性を広げるために勉強を頑張っている生徒の割合…80%以上	①②ICTツールの活用 ・ICT支援員を活用し、授業におけるGoogle Workspaceの効果的な活用 ・毎週月曜日放課後に全校生徒に補習 補習内容 計算問題、英語、書写、ICT活用等 ・課題テスト、学力向上テスト(漢字)の実施 ③大学、公務員模擬試験を受験 ・教育センターから配信される大学、公務員の補習を受ける	B	①②ICTツールの活用 ・ICT支援員を活用し、授業におけるGoogle Workspaceの効果的な活用 ・毎週月曜日放課後に全校生徒補習 ・課題テスト、学力向上テスト(漢字)の実施 ③3年生の進路希望実現に向けて全教員での進路指導の実施	B	○学年、引き続き毎週月曜日放課後や長期休業中に補習を行う ○全学年、課題テスト、学力向上(漢字)テストは継続実施 ○進路決定のために教育センター遠隔補習(公務員)を受講
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	○コミュニケーション能力の向上及びキャリアデザイン能力の向上に取組、進路実現を目指す。 ①将来の進路選択力や目標設定力を高め、100%の進路実現を目指す。 ②インターンシップ及びボランティア活動参加率100%	①進路ガイダンスの実施や個々のキャリアデザインを発表する場を設けることにより進路目標を明確にする。 ②地元企業等と連携したインターンシップの実施及び地域ボランティア活動への参加 ・外部講師による面接指導や社会人としてのマナー指導の実施	B	○コミュニケーション能力の向上及びキャリアデザイン能力の向上に取組を今後も継続的に取り組む必要がある。 ○インターンシップ及びボランティア活動参加率100%達成	B	○コミュニケーション能力の向上及びキャリアデザイン能力の向上に取組を今後も継続的に取り組む必要がある。 ○今年度も進路先決定率100%に近い数値となった。
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	○総合的な探究の時間(地域学) ・伝統産業である土佐和紙について、地域の支援員を活用し体系的に学ぶ ・地域芸能である吾北清流太鼓を地域の方々から指導を受け、課題曲を3年生全員での演奏 ①地域貢献度を生徒、地域、教員を対象に調査し、肯定割合を90%以上 ②地域との連携を10回以上	①「総合的な探究の時間」の全体発表会を実施 ・土佐和紙学習をまとめ発表する ・清流太鼓の課題曲を発表会で演奏する ②地域と連携・協働した学びを通して、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進	B	○「総合的な探究の時間」の全体発表会を実施 ・土佐和紙学習をまとめ発表する ・清流太鼓の課題曲を発表会で演奏する ②地域と連携・協働した学びを通して、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進	A	○地域と連携とした学習を継続して実施していくためにも行事がマンネリ化しないように新たな取組を取り入れていく。(R7年度は、土佐和紙を用いた団扇づくり、清流太鼓の新たな課題曲の演奏)
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付けられる力の育成	○総合的な探究の時間を活用した横断的な学び ・土佐和紙を通して、和紙の歴史(地歴公民)、和紙の活用(国語)、和紙の加工(理科・家庭科)を教科横断した学習につなげ、成果発表時にはICTを活用(情報)したものとする ①成果発表会を年2回以上実施	①「総合的な探究の時間」の全体発表会の実施 ・3年生は3年間のまとめを教科横断の視点を含め発表する ・1・2年生は、教科横断を意識した発表を目指す	B	○「総合的な探究の時間」の全体発表会の実施 ・3年生は3年間のまとめを教科横断の視点を含め発表する ・1・2年生は、教科横断を意識した発表を目指す	B	○総合的な探究の時間において、すべての教科の教員が担当できる体制を整える。

		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○地元中学生との交流 ○分校の魅力発信 ○地域と協働し魅力事業の実施	○地元吾北中学校卒業生の吾北分校への進学率の向上を目指す (R5 33.3%→50%以上) ○地元吾北地域の児童生徒数が減少するなか新規入学者数10名以上を維持する (参考:R6吾北中:3年6名、2年10名、1年7名)	①吾北小・吾北中・吾北分校による合同運動祭の実施 ②近隣中学校との吾北分校施設を活用した交流学習の実施 ③吾北分校の魅力をマスコミを利用し発信	B	○地元吾北中学校3年生の多くは吾北分校進学を考えている。 ○次年度10名以上の入学生確保は厳しい状況である。	A	○地域との連携を進めることにより、吾北分校の魅力が地域の中学生に伝わっている。 ○次年度の入学生が10名を超えることは、地元中学校の生徒数が減少する中で地道な連携が大きな成果として表れている。
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	○現状課題 風通しの良い職場環境である。この良い職場風土を維持していく ○校内研修の実施回数…3回 ○不祥事防止委員会の実施回数…3回	①風通しの良い職員室づくりに取り組む。教員間のコミュニケーションを図る ②適切なテーマをもった校内研修を実施	B	○校内研修の実施回数…2回実施 ○不祥事防止委員会の実施回数…2回実施 ・個人情報の取扱いについて各教員が自覚をもって送付時の確認をしている。	C	○会計年度任用職員の不祥事発生を未然に防ぐことができなかった。 ○身近で不祥事が起こったため、不祥事に対し自分事として捉える雰囲気や学校全体に醸成された。
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○ワークライフバランスの実現 ○よりよい職場風土づくり(再掲) ○業務のデジタル化	①長時間勤務者(月45時間超の教職員)を0人にする ②定期考査中の年休取得率を28%から40%にする ③ICTを活用した業務改善の取組を行う	①個々の勤務時間や勤務状況を把握 ②教員の出勤簿で確認する ③ICTを活用したアンケートの実施、集計	B	長時間勤務者(月45時間超の教職員)に、部活動指導に伴う教員を中心に該当するが、夏休み期間においては、夜間補習日以外の日は全教員が残業なしであった。	B	○長時間勤務者(月45時間超の教職員)2名 ○生徒引率業務(部活動各種大会・修学旅行)がない月は、長時間勤務となっていない。